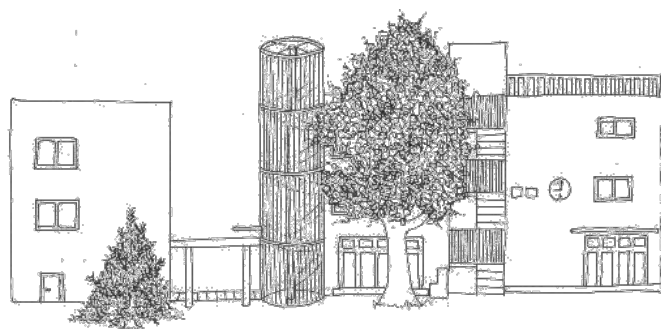


だ み よ く り に

No.729 令和4年9月1日発行

一人ひとりに実りの時間を 園長 和田美佳



まもなく2学期が始まります。みなさん、8月はどのように過ごされたでしょうか。お子さまと過ごす中で新たに発見した姿、可愛いエピソードなどがあったのではないのでしょうか。ぜひ聴かせていただきたいです。

8月の園は、園庭工事に伴い、乳児クラスの子どもたちが幼児棟で生活しました。はじめは混乱がないか……と不安もありましたが、子どもたちの順応さに驚かされました。幼児棟で生活するにあたり、保育者は子どもたちの動線や安全を第一に保育室のレイアウトを考え、環境づくりをしました。保育者自身の動線というのも重要で、備品一つの位置で動線が変わってしまいますので、色々考えていました。子どもたちの落ち着いた姿を見ると、その効果があらわれたように思います。一人ひとりが「考える」姿勢が子どもの姿に表れると実感した機会になりました。これからも保育者一人ひとりの考える力を大切に、みくに学園の子どもたちを守っていきたいと思います。

さて、個人的なことですが、8月はようやく行きつけの美容室、お墓参りに行き、あとは少し自分と向き合うことを意識して過ごしてみました。その中で本を何冊か読みました。そのうちの一冊が「ケーキの切れない非行少年たち（著者 宮口幸治）」。数年前に話題になった一冊なので、ご存知の方もいらっしゃるでしょうか。乳幼児期の子どもたちと向き合う立場からすると、とても気になる内容でした。「保育は楽しい」「子どもってすごい」「子どもが好き」これがわたしの基盤ではありますが、そのもっと奥深くには、子ども一人ひとりが本当の意味で理解され、幸せであることが大前提なのです。目を背けてはい

けない現実、実態を知り、改めて子ども時代の大切さ、そして保育者としての使命感を痛感しました。保育者として、ではなく子どもの周りにいる大人としての使命感といったほうが正しいかもしれません。わかりやすい表現で、共感する一節がありましたので、よければ下をお読みください。

さて、2学期は幼児クラスでいくつかの行事が控えています。また、待ちに待った園庭遊びも始まりますので、2学期はこれまで以上に子どもたち一人ひとりがどんな姿を見せてくれるか、楽しみでなりません。健康に気をつけながら、子どもたち、保護者の方、先生たち、そして自分自身！ 楽しく過ごせたら何よりです。

今年は残暑が厳しく、台風シーズンの降水量は平年並みか高い予想のようです。体調を崩しませんよう、気をつけてお過ごしください。

自分が変わるための動機づけには（省略）、集団生活の様々な人との関係性の中で、“自己への気づきがあること”そして様々な体験や教育を受ける中で、“自己評価が向上すること”の二つなのです。特に自己への気づきについては押し付けではなく自ら「気づきのスイッチ」を入れねばなりませんので、我々としては少しでも多くの、かつ様々な可能性のある場を提供し、スイッチを入れる機会に触れさせることが大切です。

これらは学校教育でも全く同じと感じます。（省略）「子どもの心に扉があるとすれば、その取手は内側にしかついていない。」まさにその通りだと思います。子どもの心の扉を開くには、子ども自身がハッとする気づきの体験が最も大切であり、我々大人の役割は、説教や叱責などによって無理やり扉を開けさせるのではなく、子ども自身に出来るだけ多くの気づきの場を提供することなのです。